

上杉慎吉 憲法学者。天皇機関説に対抗する天皇制絶対主義勢力のシンボルとなるも、学界では受け入れられず。

うえずぎしんきち
大久保暗殺・1878 =

福井県で、元大聖寺藩医で病院長を務める上杉寛二の長男に生まれる。母はノブ子。

明治14年政変1881 = 3歳 :

国民之友始・1887 = **9歳** :

帝国憲法発布1889 = 11歳 :

日清戦争始・1894 = 16歳 :

白馬会・・・1896 = **18歳** :

子規句歌革新1898 = 20歳 : 第四高等学校を経て、東京帝国大学法学部に進学。

教授で天皇主権主義の穂積八束から目をかけられる。

日比谷公園・1903 = 25歳 : 恩賜の銀時計を授与されて卒業。在学中の保証人でもあった教授一木喜徳郎の勧めで、助教授に就任。キリスト教に心を寄せていたことから、穂積説を批判するようになり、

日露戦争終・1905 = **27歳** : 「帝国憲法」を、
満鉄発足・・・1906 = 28歳 : 「比較各国憲法論」を公刊、「**いわゆる天皇機関説をとっていたが、英・独・仏に私費留学して、**

伊藤博文暗殺1909 = 31歳 : **国家法人説の創唱者でドイツ国法学界の大家イェリネックらに接し、**
韓国併合・・・1910 = 32歳 : **帰国して助教授に復帰すると、**
***法学博士になるとともに、教授穂積八束の唱える天皇主権説の後継を自認するようになり、**

大逆事件判決1911 = 33歳 : **美濃部が文部省主催夏期講習会で憲法の講義を行うと、**
明治天皇没・1912 = 34歳 : ***「国体に関する異説」を発表して、穂積とともに攻撃を加え、上杉・美濃部を中心に、天皇主権説対天皇機関説のはげしい論争が展開された。穂積が病のために退官すると、その後をついで東大憲法講座を担当、**

大正政変・・・1913 = 35歳 : **保守的学者・官僚を集めて{桐花学会}を設立。陸軍大学教授を囑託され、**
第一次大戦始1914 = **36歳** : 「帝国憲法述義」、
民本主義・・・1916 = 38歳 : 吉野作造の民本主義を批判、親しくなった高島素之一派と{経綸学盟}を設立して国家社会主義運動を進める。

海軍大学教授も囑託された上、皇族にも進講し、勅委任の行政官のほとんどに影響を与えて行く。さらに、東大内で{新人会}{社会科学研究会}に対抗すべく、

〆 野田条約・1919 = 41歳 : **{興国同志会}を結成、**
大暴落・・・1920 = 42歳 : 欧米出張。森戸辰男の論文「クロボトキンの社会思想の研究」を排撃して辞任に追い込み(森戸事件)、
原敬首相暗殺1921 = 43歳 :

関東大震災・1923 = **45歳** : 大杉栄を虐殺した甘粕正彦を擁護して、軍部との関係が一層強まる。
護憲三派圧勝1924 = 46歳 : ***続いて{七生会}を結成。「新稿憲法述義」などを公刊して、天皇機関説憲法学を正面から攻撃し続け、**

円本時代始・1926 = 48歳 : **赤尾敏が創設した右翼団体{建国会}会長にもなったりするが、**

***学界では美濃部らの機関説憲法学が優勢で、重んぜられなかったために、鬱々として楽しまず、**
世界恐慌・・・1929 = 51歳 : 陸軍大学、海軍大学囑託も含めて在任のまま**没した。**
学説をつく学者は出なかったが、上杉の説を熱心に支持する学生達は国家主義の先駆けとなる{木曜会}を形成して右翼学生運動の源流となり、{興国同志会}は巨大な右翼団体{国本社}に発展、{七生会}のメンバーの一部は血盟団事件で犯行グループに参加している。